

Notice

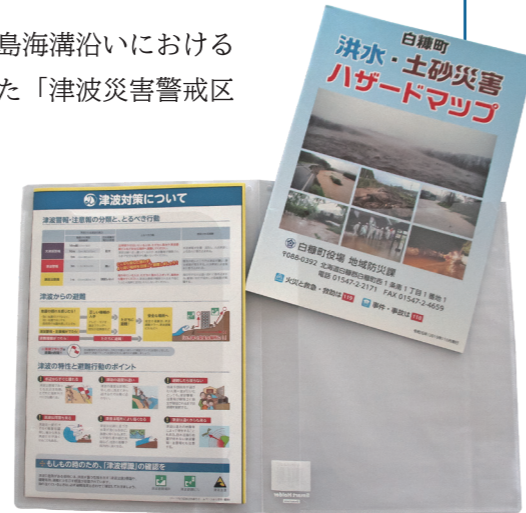
「津波ハザードマップ」を配布します

このハザードマップは、令和2年4月に国が公表した「日本海溝・千島海溝沿いにおける最大クラス津波断層モデル」を基本に、令和4年1月に北海道が指定した「津波災害警戒区域」に基づいて作成しました。津波浸水想定は、建築物等への衝突によって生じる津波の水位上昇(せき上げ高)も加えて表しています。

津波の第1波は、地震発生から約30分で陸地に到着し、浸水域は内陸4kmにまでおよびます。最大津波高は、白糠漁港で11.8m、庶路川河口、釧白工業団地で10.2m、馬主来沼で12.6mとなっておりますが、到達時間が早まったり、予測を超える津波が発生する可能性もあります。

日頃から地域の危険箇所や災害時の連絡方法、避難先、避難経路、非常持出品の用意など、家族や職場、地域の皆さんで話し合い、互いに防災意識を高めあって「逃げるが勝ち!」「自己責任で20分以内に避難する」を合言葉として、災害に備えましょう。

問合せ先/地域防災課地域防災係(内線222)



今回配布する「津波ハザードマップ」は専用ファイルに入れて配布しますので、以前配布した「洪水ハザードマップ」と併せて、保管してください。

Book

新着図書案内

児童・生徒図書



空から見える、あの子の心 著者: シェリー・ピアソル



ケケと半分魔女 魔法の宅急便 特別編 その3 著者: 角野 栄子

一般図書



同志少女よ、敵を撃て 著者: 逢坂 冬馬



きりぎり舞いの さようなら 著者: 諸田 玲子



今を生きるあなたへ 著者: 瀬戸内寂聴

絵本



やさしいのがっこう いちごちゃんはやさいなの? 著者: なかや みわ



旅の絵本10 著者: 安野 光雅

今月のおすすめ本

「完食!家ごはん」

著者: 藤原 美樹 出版社: 主婦の友社

昨年11月に白糠のふるさと納税返礼品を使った特別レシピを公開した藤原さんの著作です。おうち料理研究家として大人気の著者が考案した、調理が楽でボリュームたっぷりのレシピが多数掲載された一冊。皆さんどうぞご活用ください。



新着図書は他にもたくさんあります。町ホームページで紹介していますので、下記のQRコードからご確認ください。



問合せ先 公民館図書室 ☎ 2-5555 10:00~18:00(土・日・祝日は17:00まで) 月曜日は休館日

Notice

「自然の番人宣言」15周年記念ポスターコンクール表彰式

2月4日、第11回釧路管内「自然の番人宣言」15周年記念ポスターコンクールの表彰式が白糠中学校、庶路学園で行われました。同コンクールは、釧路管内の小・中学校から計96点の応募があり、町からは白糠中学校・庶路学園・茶路中学校の中学2年生から38作品の応募がありました。

中学生の部門では最優秀賞1点、優秀賞6点、佳作14点が選出され、そのうち庶路学園からは、優秀賞1点、佳作2点、白糠中学校からは優秀賞2点、佳作3点が入賞しました。



1/庶路学園(写真左から福嶋さん、高橋さん)

【優秀賞】鍵政朱優さん(表彰式は欠席) 【佳作】高橋紅愛さん、福嶋悠揮さん



2/白糠中学校(写真左から、池田さん、長谷さん、廣橋さん、井出さん、筒渕さん)

【優秀賞】長谷華瑠美さん、廣橋謙吾さん 【佳作】池田海瑠羽さん、井出颯生さん、筒渕月渚さん

問合せ先/町民サービス課生活環境係(内線517)

Notice

ゼロカーボンシティ宣言

近年、気候変動が一因とみられる異常気象の影響により、世界各国で深刻な自然災害が発生しています。また、国内各地においても、猛暑や集中豪雨、大型台風などが頻発するなど、気候変動問題は、私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。

こうした状況を踏まえ、本町は2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「白糠町ゼロカーボンシティ宣言」を2月1日に表明しました。

本町ではこれまでも、温室効果ガスの削減に向けた「COOL CHOICE」にいち早く賛同し、省エネルギー対策の実践に取り組んできました。

まちの将来に向けて、町民、事業者、行政が一丸となってこれまで以上に再生可能エネルギーの地産地消や省エネルギーの取り組みを推進していきますので、町民の皆さんも節電等にご協力をお願いします。

問合せ先/企画財政課企画調整係(内線235)

白糠町ゼロカーボンシティ宣言

近年、気候変動が一因とみられる異常気象の影響により、世界各国で深刻な自然災害が発生しています。また、国内各地においても、猛暑や集中豪雨、大型台風などが頻発するなど、その災害も激甚化し、気候変動問題は、私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。

2015年に合意されたパリ協定では、「世界的な平均気温上昇を1.5℃に抑える努力を追求する」と目標が掲げられました。さらに2018年に公表されたIPCC(気候変動に関する政府間パネル)の特別報告書では、「2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

本町ではこれまでも、温室効果ガスの削減に向けた「COOL CHOICE」にいち早く賛同し、公共施設における高効率型ボイラーや電気自動車の導入をはじめ、照明設備のLED化など省エネルギー対策の実践に取り組んできました。

本町には、大型太陽光発電パネル施設や木質バイオマス発電所の立地のほか、地熱資源に関する調査が実施されるなど、地域に賦存する再生可能エネルギーを最大限に活用した取組を進めていくことが大切であると考えます。

これまで以上に町民、事業者、行政が一丸となって再生可能エネルギーの地産地消や省エネルギー活動を推進し、「まちは子や孫への贈り物」という方針のもと、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、取り組んでいくことを宣言します。

令和4年2月1日

白糠町長 棚野孝夫